

(2) 八戸聖ウルスラ学院高等学校

青森って何?～(法人) ハイテク室内農業～



政策を考えた八戸聖ウルスラ学院高等学校の皆さんから、メッセージをいただきました！



谷地 悠吾 (1学年)

青森県の問題がこの機会を切っ掛けに改善していけたらいいと思います。

また、政治についてしっかり考えたのが初めてだったので新鮮でした。

今回の高校生模擬議会で、とても特別な体験をすることができました。また、実際に議会でしか分からないその場の雰囲気を感じました。

議員の皆さんが、いい意味であり緊張感がなく、自分もあまり緊張しないですみました。意外と議員の皆さんも楽しそうでした。

今後はこの経験を生かしたいです。



吉田 傳生 (1学年)

こういった活動を機に、若者の政治参加が盛んになればいいと思います！



岩花 奏 (1学年)

自分たちの住んでいる青森県について知り、話し合う貴重な機会になりました。

青森県のニュースなどを積極的に見て、政治や産業への関心を深めていきたいです。



大矢 結花 (1学年)



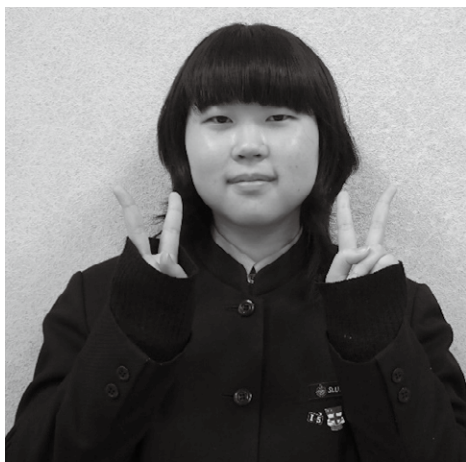
佐々木 陽奏 (1 学年)

もっと素敵な青森県にするため、積極的な活動をこれからもしていきたいです！！

青森県が現在抱える課題や、今後積極的にアピールしていくべき魅力など、青森の今と未来について考えるととても良い機会になりました。



田中 未来 (1 学年)



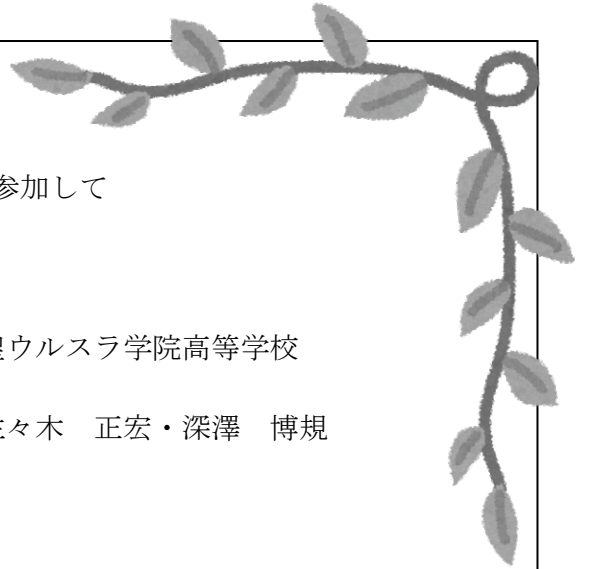
西山 陽菜 (1 学年)

青森県をハイテク農業の聖地にします。そして青森県は、農業の首都になります。

より青森について知れてよかったです。とても良い経験ができました。ありがとうございました。



和田 実依奈 (1 学年)



青森県高校生模擬議会に参加して

八戸聖ウルスラ学院高等学校

佐々木 正宏・深澤 博規

生徒の進路指導に携わると、都会に憧れて県外への進学を希望する生徒が多い事実にも直面します。大学や専門学校を卒業後に地元に戻ってくる卒業生もいますが、大多数は進学先の県外でそのまま就職をしてしまいます。在校生や卒業生たちに理由を聞くと、「青森県には魅力がない」などの意見が返ってきます。

このように、これまでの生徒たちは青森県に魅力がない原因を、置かれた環境のせいにするとしかできなかったように思います。しかし、高校生模擬議会に参加させていただいたおかげで、参加した生徒たちは「自分たちが行動すれば、地元を変えられるかもしれない」という自覚と責任、そして希望を持つことができたように感じます。

終了後の座談会では、県議の方々の熱い想いや姿勢を拝見することができ、生徒たちも青森県に対する強い想いを感じることができたと思います。自分の想いを聞いてもらえる貴重な機会だと、積極的に発言をした生徒もおりました。このように議員の方々と直接関わることで、政治や選挙に対する考え方や行動が良い方向に変わるのではないかと感じた場面でした。

青森県高校生模擬議会に参加するにあたり、生徒たちは多くのことを学ぶことができました。説得力を持たせるために必要なデータの収集を通して、自然と取捨選択のスキルを身につけていきました。この活動で身につけた力を生かして、これからの青森県のために行動してくれると期待しています。学校や教科書での学びでは得ることができない貴重な経験をさせていただいたことに、改めて感謝します。本当にありがとうございました。

青森って何？

～（法人）ハイテク室内農業～



八戸聖ウルスラ学院高等学校 1

私達は農業の法人化を推進し、室内農業を活性化させる政策を提案します。



この政策提案をするに当たり、私達は青森県のイメージを見直すところから始めました。

青森県のイメージ【校内アンケート】 1/2

- 人が優しい
- 景色が綺麗
- 祭り（三社大祭、ねぶた etc.）



そして何より

農業が盛ん！



青森県のイメージについて校内アンケートを取った結果、人の優しさや自然の豊かさだけでなく、全国的に有名なお祭りがあるなどの意見が寄せられました。

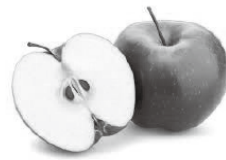
そして生徒の中で多く出たのが「農業が盛ん」でした。
(2)



青森県には多くのブランド米があります。またごぼうやにんにくを初め農作物の収穫量も多いです。

そしてりんごは、誰もが知る青森県が誇る宝として台湾を初めとする海外にも販売されています。
(3)

青森県の農作物



- ・ まっしぐら
- ・ はれわたり
- ・ 青天の霹靂
- ・ ごぼう
- ・ にんにく
- ・ りんご

3

ですが、全国に誇れる農作物は、ここ数年で存続の危機に瀕しています。(3)

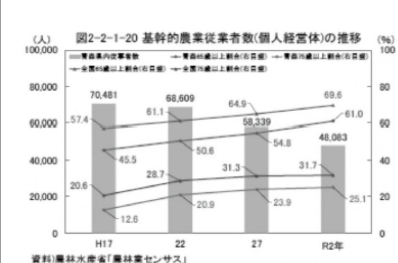


青森県の農業の現状として、就労者数の減少や高齢化による後継者の不足などが挙げられます。

グラフを見ると、15年間で従事者が約2万人減っていることがわかります。(4)

青森県の農業の現状（就労者の減少や高齢化）

4



図・青森県の農業従業者数（個人）の推移

魅力を感じない点

【ウルスラ生の意見】

- 収入が不安定
- 一般企業と比べて、福利厚生や社会保障が充実していない
- 自営業のため休暇を取りづらい
- 後継者確保などの問題がある

そこで、若者が農業に魅力を感じない点を本校の生徒に聞いてみました。

多かったのは「収入が不安定」を始めとする資料にあるような意見でした。(4)



しかし、必ずしも青森県の農業が悲観的な状況ではないことが、「統計データからみる青森県の姿」から見て取れます。

青森県の農業の特徴

BUT...

- ① 就業人口が多い！
- ② 新規就農者数が増加傾向にある！
- ③ 農業の法人化が進んでいる！

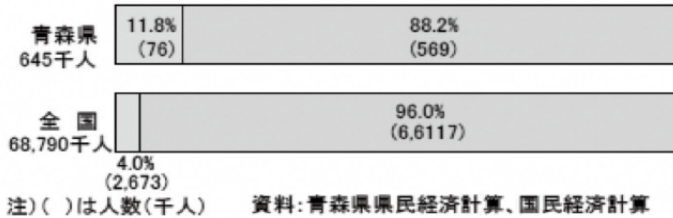


青森県の農業は、就業人口が多い、農業の法人化が進んでいるなどの明るい話題もあります。(5)

青森県の農業の特徴①

県の第一次産業人口の割合が全国平均より高い！

図3 就業人口に占める第1次産業就業人口の割合(平成30年)



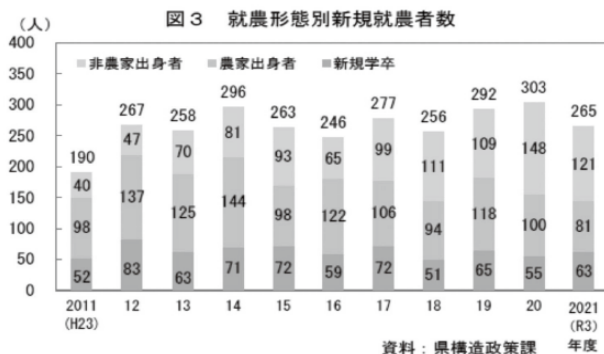
青森県の農業の特徴①にもあるように、青森県は第一次産業の人口割合が全国平均より高いことが挙げられます。グラフの水色の部分は第一次産業を表しています。このように青森県は全国平均を上回っていることがわかります。(6)



また、特徴②として新規就農者数が増加傾向にあります。オレンジ色で示されている非農家出身者に注目してみると、2011年と比べて約3倍増えていることがわかります。(7)

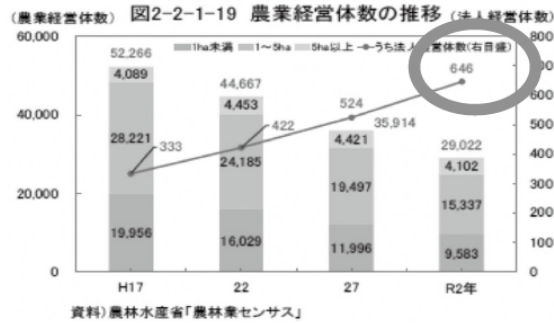
青森県の農業の特徴②

新規就農者数が増加傾向にある！ (特に非農家出身)



非農家出身者の就農者数が増加すると、農業に関わる人が増えるのではないかと私達は考えました。

青森県の農業の特徴③ 農業の法人化が進んでいる



そして特徴③として、青森県では農業の法人化が進んでいます。

平成17年から令和2年までの15年間で農業経営体数は約半分まで減少していますが、法人経営体数は約2倍になっています。

このように、農業の法人化が現在注目されています。(8)

8



次に青森の農業の法人化について説明します。

青森県の農業の法人化の取り組み



青森には雇用就農に関するガイドブックがあり、ここには実際に法人化した会社や雇用就農の現場で求められている人材などが載っています。

9

ガイドブックを作って支援をしている



法人化の手順事例紹介



ガイドブックによると、農業の法人化には安定した収入や、他の会社と同様に社会保険・労働保険に入る義務があるので、充実した福利厚生などの利点があります。(10)

10



これらは本校の生徒が、農業に対して魅力を感じていないとした点を解消することができます。

青森県の農業の特徴③ 法人化のメリット

解消

【ガイドブックより】

- 給料制（収入の安定）
- 定時で帰れる
- 社員が仲間
- 就職同様、会社に出社すればいい（農機具等の先行投資不要）

魅力を感じない点

【ウルスラ生の意見】

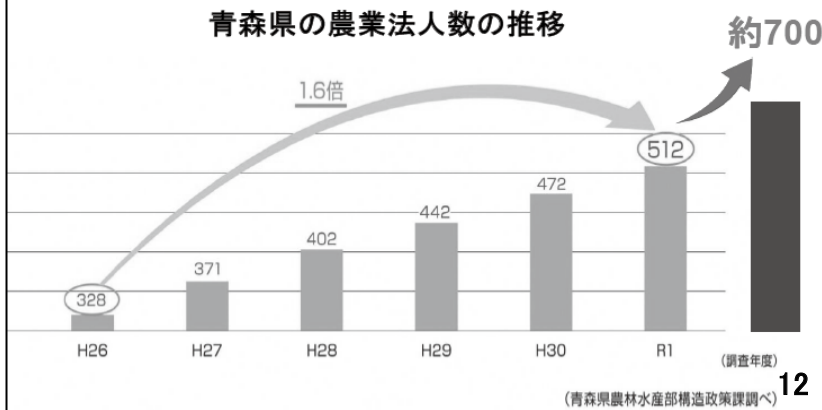
- 収入が不安定
- 一般企業と比べて、福利厚生や社会保障が充実していない
- 自営業のため休暇を取りづらい
- 後継者確保などの問題がある

そしてこのような雇用体系が普及していけば、これまでは選択肢に入っていなかった農業も、将来の職業選択の1つになると答える生徒も多数いました。(11)

11

青森県の取り組みによる成果

青森県の農業法人数の推移



このような青森県の取組により、グラフにも示されているとおり、県の農業法人化数は増加傾向にあります。

令和4年度のデータでは約700件まで増えています。(12)



私達は農業の法人化が農業従事者数増加の鍵になると考えました。



ここから具体的な政策提案を
発表します。
まず収入の安定や充実した
福利厚生観点から、これまで
以上に、農業の法人化を推し
進める政策を提案します。

【現状】

**農業の法人化推進
＋
ハイテク
室内農業**

～気軽に農業がしたい！～

13



加えて炎天下での肉体労働
など、若い世代が懸念する負
のイメージを払拭するため、
ハイテク機器を備えた室内農
業を拡充する政策を併せて提
案します。(13)



室内農業とはその名の通り
室内で行う栽培方法であり、
スマートフォンのアプリやA
Iを活用することにより作業
の効率化を図ることができま
す。(14)




室内農業とは？

- ・室内で水耕栽培や土壌栽培などの方法を使った農業
- ・ハイテクな機械や設備などを使った農業

ハイテク農業とは？

- ・AIの活用により、収穫できる作物を個別に判断し、
収穫することができる。
- ・携帯端末のアプリケーションを利用して温度など
の管理、トラクターやコンバインの操作ができる。

14

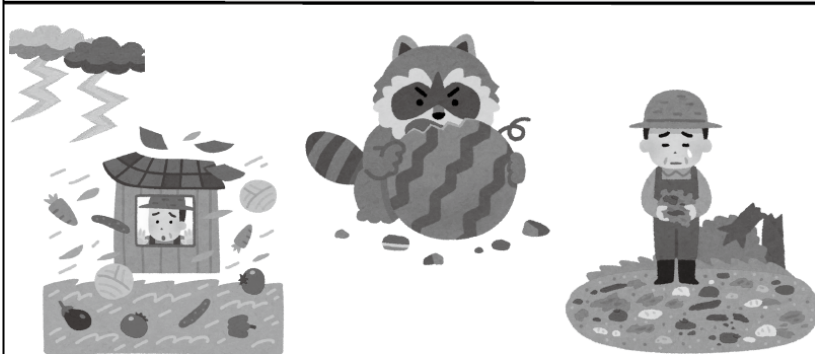




この政策により「農業＝肉
体労働」というネガティブな
イメージがポジティブに変わ
り、これまで以上に青森県の
農産業が発展していくと考え
ます。

1 様々な被害がなくなる

15

☞ 台風や野生動物による食害、盗難などを防ぐことができる。



次に、室内農業のメリットを説明します。

1つ目のメリットは、屋外農業で考えられる様々な被害が無くなることです。

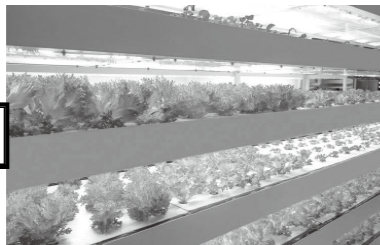


屋外では天候による作物への影響や野生動物による食害が発生する可能性があります。

また、室内を施設することにより盗難防止にもつながります。(15)

実際に...

屋外では防げない災害の心配がいらない！！



一年を通して、安心して育てられる

16

実際、室内農業ではこれらの作物への被害を気にせずに行うことができ、台風などによる農作物の被害を心配する必要がなくなると考えます。(16)



2つ目のメリットは「農業＝暑い、日焼けをする」などというイメージが無くなり、若い世代の農業の印象が良くなるということです。

2 若者ウケがよくなる

17

☞ 紫外線がない。気温調節ができる。外よりも清潔。

日焼けすることなく農業ができる

☞ 「農業＝暑い、日焼けする」

というイメージの払拭



室内は気温調節ができ、紫外線が少ないので、快適な環境で農業をすることができます。(17)

室内農業『晴天の霹靂』成功例も！ in 東京



PASONA

2016年3月25日
パソナグループ公式サイトより抜粋

<https://www.pasonagroup.co.jp/media/index114.html?itemid=1630&dispmid=796>

18

また、県のブランド米の「青天の霹靂」が東京での室内農業に成功している点も後押しになっています。(18)



私達は室内農業の普及に当たり廃校舎の活用を提案します。

政策

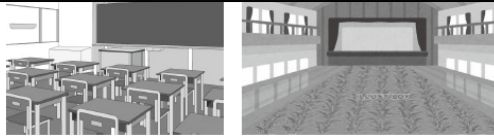
(法人) ハイテク室内農業の取り組み

- 1 場所（廃校舎の活用）
- 2 普及へのプロセス
- 3 作物について

校舎の中では具体的にどのような場所が農業に適しているでしょうか。

19

どんな場所で？



1 体育館

- ➡ 大きな窓や扉が多くあるため、換気が楽！
- ➡ スペースを広く取ることができる

2 空き教室

- ➡ 校舎内にたくさんある
- 小規模な農業スペース・休憩スペース・物置など、様々な目的で使用することが可能

まずは体育館です。大きな扉や窓が多くあるため、農業をする上で欠かせない日当たりの調節や換気などを容易に行うことができます。

また、校舎内の教室も効果的に用いることができるでしょう。普通教室は、特別教室や体育館よりも数が多いため、ニーズに応じて様々な用途で使い分けることもできます。(20)

廃校活用のメリット（文科省HPより）

https://www.mext.go.jp/content/20210311-mxt_sisetujo-000010166_01.pdf

【企業】行方産のさつまいもを関西や九州で加工し全国に販売している企業が、行方市への工場進出を進めている。
 【行方市】小中学校の統廃合を進めていたところ、市主催の説明会で学校跡地を利用した農業活性化プロジェクトの理解を得て、売却が決定。「なまがたファーマーズビルレッジ」(加工工場、ミュージアム、レストランを設置)としての運営開始。
 ※ H25「6次産業化推進事業(連携施設整備事業)」補助金(農林水産省)

自治体における収益等のメリット	地域活性化に関するメリット	活用事業者側のメリット
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 廃校施設の売却益(約1,122万円) ◆ 雇用創出による経済効果(常勤100名超) ◆ 本来かかる廃校施設の維持管理費の減(67万2,000円/年) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 観光客増加による経済効果等(約21万5,000円/年) (うち観光客:約17万5,000人/年) ・はとバスコースになる等、観光客に人気。 観光客のうち6割がドクター。(視察等:約4万人/年) ・全国市町村(教育委員会、農林水産関係や商工観光関係、議会等) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 同規模建物等を新築するよりも安価な改修費用により事業開始が可能。 ◆ 同規模建物等を新築する場合にかかる経費=約40億円 ◆ 改修費用=約22億円(その他が、設備除却費で4億円(工場:12億円、高層施設:2億円)) ※ 約半分弱の経費で事業開始

旧大和第三小学校をさつまいものテーマパーク「なまがたファーマーズビルレッジ」に活用



教室も、さつまいもの歴史を学ぶための展示室に改装。 廊下も、校門前には行方市立大和第三小学校という文字がある。

茨城県行方市 (なまがた)

自治体の収益増

地域活性(観光) 21

さらに、茨城県行方市を例に挙げます。

行方産のさつまいもを加工販売する企業が、さつまいものテーマパーク「行方ファーマーズビルレッジ」として廃校舎を再利用しています。

この施設は、さつまいもの加工工場以外にも、ミュージアム、レストランとしての機能を兼ねており、観光客から人気のスポットになっています。(21)



そしてスライドの自治体側のメリットにもあるように、元々存在する校舎を改修して再利用することで、建設コストを抑えることができます。

「行方ファーマーズビルレッジ」の場合は、約半分の経費で済んだようです。

青森県庁ホームページより

22

廃校施設の活用状況(青森県公立:小中学校)

廃校年度		平成14年度～令和2年度 (令和3年5月1日現在)		
廃校の数(A)	小学校	(校)	208	
	中学校	254	46	
施設が現存している廃校の数(B)	×100(%)	(校)	(%)	
	B/A	189	74.4%	
活用されているもの(a)	a/B	114	60.3%	
	b/B	75	39.7%	
活用の用途	決まっている(c)	c/B	2	1.1%
	決まっていない(d)	d/B	55	29.1%
取壊しを予定(e)	e/B	18	9.5%	
現存する施設なし(C)	C/A	65	25.6%	

青森県における廃校施設の活用状況をご覧ください。

青森県内に存在する廃校となった小中学校、さらに現在活用の用途が決まっていないものは、全254校のうちの55校で、全体の3割近くの廃校が放置されている状況です。

(22)


活用方法を募集している廃校舎も（例：三戸町立杉沢小中学校）

青森県	三戸町	三戸町立杉沢小中学校	三戸町大字員守字杉沢小中90
三戸町役場から車で30分(約18km)		問い合わせ先	三戸町教育委員会事務局 0179-20-1157
https://www.town.sanriohi.aomori.ac/			

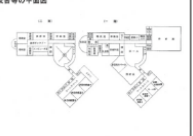
文科省HP
「みんなの廃校」
プロジェクト

用途地域	土地面積 (㎡)	構造 竣工年 施設区分	建設面積 (㎡) 延床面積 (㎡) 階数	募集内容	資力・建設条件等	備考
都市計画区域外	17,132	鉄筋コンクリート造 校舎: 363 体育館: HZ	2,076 3,021	・利用者募集 ・事業提案募集	・閉校施設が、地域の教育やコミュニティの中核的な施設であったことを踏まえ、地域の活性化と教育施設に貢献できるものであること。 ・地域の理解が得られること。	・新耐震基準により建築された建物(57年以降の建築物)


仮設等外観写真



仮設等の平面図




仮設等の配置図



23

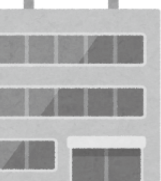
そして活用の用途は決まっていなくても活用方法を募集している廃校も存在します。
資料に引用しているのは文部科学省のHP内の「みんなの廃校」プロジェクトの旧三戸町立杉沢小中学校の項目です。(23)



(法人) ハイテク室内農業普及へのプロセス 24




- 体験施設の設置
➡ 多くの方が体験型施設に興味を持っている。
- 体験施設と室内農業の運営を民営化
➡ 県が整備をし、運営会社と事業契約する。(コンセッション方式)
- 他の会社の参入や農業施設を拡大
➡ 県の支援をいただき、誘致

会社





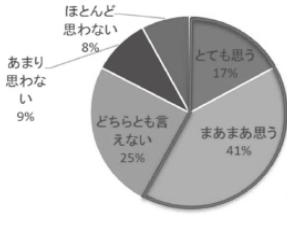
このような廃校を民営のハイテク農業施設として活用し、県の支援をもらいながら他の企業を誘致するなど、施設の拡大を図ることで、県内の廃校を農業体験型の観光施設に生まれ変わらせ、県内の農業、観光業のさらなる発展につなげます。(24)



このような農業体験型施設が観光資源となる根拠について説明します。

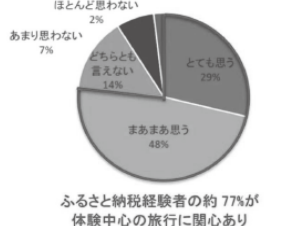
体験型施設が観光資源になる根拠 1/3 **25**

Q3 農業体験や伝統工芸体験など、そこでしか体験できないことを楽しむ「体験型の旅行」は魅力的だと思いますか？ (n=1010)



約 58% が体験型旅行に関心

Q (ふるさと納税経験者 368 名)
農業体験や伝統工芸体験など、そこでしか体験できないことを楽しむ「体験型の旅行」は魅力的だと思いますか？



ふるさと納税経験者の約 77% が体験中心の旅行に関心あり

【データ】体験型の旅行とふるさと納税に関する調査 トラストバンク調べ | (kankokeizai.com)
観光経済新聞HPより (2023.05.31 掲載)

観光経済新聞から引用した、体験型の旅行とふるさと納税に関するアンケートの結果によると、58%が体験型の旅行に興味があると答えています。
また、回答者をふるさと納税経験者に絞ったアンケートの結果では、77%が体験型の旅行に興味を示しているという結果になりました。(25)

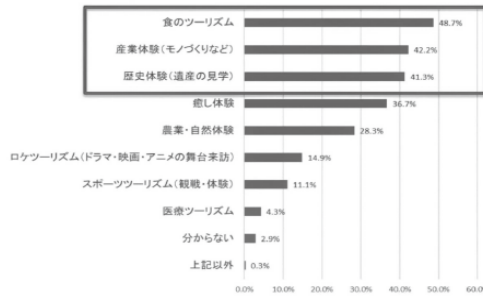


また、体験型の旅行をする
としたら魅力的だと思うこと
はどれかに対する上位3つの
回答が、食のツーリズムや産
業体験、歴史体験であるとい
うデータが挙げられていま
す。(26)

体験型施設が観光資源になる根拠 2/3

26

Q4 体験型の旅行をしたら、魅力的だと思うものはどれですか？ (n=1010)



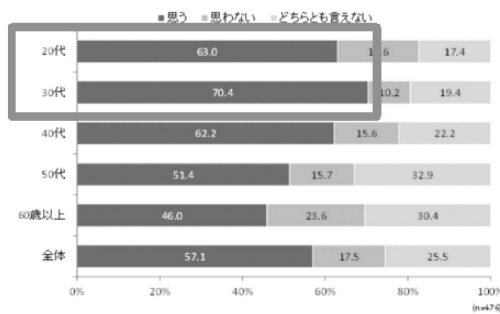
【データ】体験型の旅行とふるさと納税に関する調査 トラストバンク調べ | (kankokeizai.com)

観光経済新聞HPより (2023.05.31 掲載)

他にも20代から30代は、農
作業の体験をしたいと思う割
合が高く、若い世代で好意的
な意見が多いことが分かりま
す。(27)

体験型施設が観光資源になる根拠 3/3

図表1 「あなたは農作業の体験をしたいと思いますか？」



若い世代で
好意的な意見が
多い(追い風)

(資料)平成27年度第2回インターネット都政モニターアンケート結果「東京の農業」2015/8/10東京都生活文化局
http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2015/08/60p8a111.htm

27

このようなデータから私達
は、主に若い世代のたたく
の方々には体験型施設を提
供したいと考えました。

育てる作物

- ・ レタス
- ・ ジャガイモ
- ・ サツマイモ
- ・ ミニトマト
- ・ イチゴ

など

子どもに人気の
野菜・果物

幼少期からの継続的な体験を通して子供たちに農業の楽しさを知ってもらおう

これらを踏まえ、私達は育
てる野菜を子どもに人気の野
菜、果物に決めました。
体験を楽しみながら食への
関心を深めることができると
思っています。(28)

28

育てた作物はどうなる？

1. 作物のブランド化 (Kaccha)
2. 県内各地のスーパーなどに流通させる
3. 室内で採れた野菜をセットにしてインターネット販売

☐ 「Kセット」



そして育てた作物は、県内各地のスーパーなどに流通させることも考えています。加えて栽培した野菜やお米を詰め合わせた「Kセット」をブランド化し、インターネットなども利用して販売につなげていきたいと考えています。(29)

29



「Kセット」のKは、かっちゃんのKと、食べなさいの方言である「け」を由来としたものです。このように農業体験が観光の1つにもなることで、新しい農業形態を周知することができます。

(法人) ハイテク室内農業によって期待できる青森県への効果

- 農業体験施設が観光の1つになる。
- ☐ 新しい農業形態があることを周知できる。
- ☐ 子どもが楽しめる施設にすることで、
将来の職業選択肢にできる。
- 従業員が増えれば、人口も増える。



青森県 2023年12月	
将来やりたい職業は？	
1	会社員・OL
2	インフルエンサー YouTuber
3	公務員
4	美容師 ヘアメイクアーティスト
5	CA・パイロット

30

そして法人化による収入の安定と室内農業のポジティブな印象から、労働人口が増え、結果的に青森県全体の人口の増加につながると確信しています。(30)



今回の政策提案のまとめをします。本校に通う多くの生徒が、青森県に対して農業のイメージを持っていることが分かりました。一方で、労働面や収入面がネックとなり、多くの生徒にとって農業が職業選択に入っていないのが現状です。



しかし、本校の生徒が抱く不安を解消する大きな可能性を、農業の法人化が持っていることが分かりました。

農業の法人化を拡充するだけでなく、より若者に親しみやすい室内農業を推し進めることが、青森県がこれまで以上に発展していく重要な鍵となると結論づけました。

まとめ

青森県のイメージとして先に上がるのは**農業**

- 農業の法人化を県の支援を受けながら拡充する
- 室内農業を体験できる施設作り
- この先の農業就業者を増やす
- 青森のイメージを守り続けることに繋がる
- 観光や雇用、人口増加につなげることができる 31

また、室内農業を体験できる施設づくりも並行して行うことで、新規の農業者の獲得にもつながると考えます。

より多くの方々に体験してもらうことによって観光資源にもなり、雇用や人口の増加も期待できます。(31)

Q.青森って何？

32

A. ハイテク農業による 地域活性化の聖地



以上により農業の法人化を推進し、室内農業を活性化させる政策をここに提案します。

最後に「青森って何？」に対する私達の答えを発表します。それは「ハイテク農業による地域活性化の聖地」になります。(32)



室内農業の充実によって、これまで以上に魅力的な青森県をつくっていくことができると確信しています。

ハイテクな室内農業により、各地域の活性化が進んでいる青森県を目指していきましょう。

● 木 明^{き みょう} 和人^{かずひと} 議員（自由民主党）

（木明議員）



私の選挙区であります上北郡は、日本でも有数の野菜の生産地であります。

その中でお伺いしますけれども、農業法人以外にも県内にはいろいろな法人があります。

そのような状況において、若い人達に農業法人に就職していただくためには、何が必要か、どのような工夫や取組が必要であるかお伺いします。

（答弁）



HR総研の2022年修了理系院生の「就職活動動向調査」の結果報告によると、大学院生が希望した職業は多い順に「研究開発職」、「システムエンジニア」、「設計・開発職」、「生産技術・工法開発・生産管理職」の4つとなっています。

この上位4つの結果から、研究や開発系の職業が人気であると言えます。

したがって、作物を室内農業に適するように品種改良するための研究所などを設けて、室内農業にプラスして研究などの他の分野もできる環境を作ります。

また、同調査によると、魅力的なインターンシップの内容として一番に「実務体験」が挙げられます。そこで、理系の大学院生に限らず、体験制度を実施しやすい室内農業で、実務体験のインターンシップを積極的に実施します。

このようにして、就職活動における若者に人気の分野を取り入れることによって、若者の積極的な就職が期待できると考えます。

（木明議員）

ご提案の中で廃校利用ということがありました。青森県でも問題になっている点でありまして、1つの解決策が生まれたのかなと感じています。

今後、みなさんのご提案を真摯に受け止めて、誠実に議員活動をして参ります。

● おおだいら ようこ 大平 陽子 議員（オール青森）

（大平議員）



皆さんの発表において、ハイテク室内農業というのは天候などに左右されず、災害などの被害も無く、動物や鳥などによる食害も無いため、全国どこの地域で実施してもいい栽培方法だと思いましたが、青森県で実施するほうがいいと思われる優位性は、特にどういうことだと考えるのかお伺いします。

（答弁）



青森県は平成 26 年に既に水耕栽培の第一工場を作っており、平成 27 年には廃校を利用して第二工場を作っています。

また、スマート農業の普及率は 2020 年時点で 11 位であるため、全国平均より高いです。

これにより青森県は早い段階で農業のハイテク化に着手しており、私達が考えた政策を実行するには十分な土台が整っていると言えます。

また、青森県は第一次産業の就業者が全国より多く、法人化が進んでいます。そこで、青森県が新しい形態の農業の実績を作ることで、新しい農業モデルとして全国に普及させることができます。

これが青森県でハイテク農業を実施する優位性だと言えます。

（大平議員）

とてもよく青森県のことを勉強した立派な答弁だと感じました。ありがとうございました。

みなさんが提案してくれた政策を、今後、県の政策に取り入れていけるように、私達も頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

(後藤議員)



青森県の課題を見事にチャンスに変えるような、明るい未来が見えるご提案をありがとうございました。

体験型施設としても機能させるということでしたけれども、先ほどインバウンドの話もありました。青森県には、国や地域、年齢、いろいろなジャンルの方が訪れると思います。

その中で、より多く子ども達や観光客に訪れたいと思ってもらうためには、どのような工夫や取組が必要だとお考えなのか、お聞かせください。

(答弁)



青森県内外に住む若い世代の人々へ情報を発信するツールとして、SNSや動画配信サービスを考えています。

SNSでは施設や機械、作物の様子を発信します。動画配信では有名人の出演する動画の配信などを主軸に据えた広報を行うことで、多くの人に興味や関心を持ってもらうことにつなげることができます。

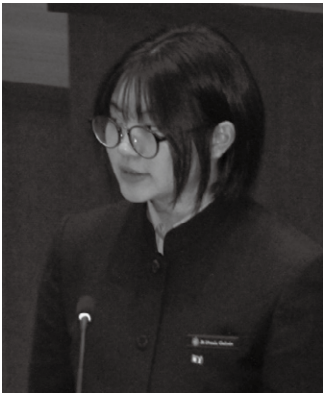
また、来場者や子ども達へ向けて、室内農業施設内で野菜を振る舞ったり、施設内の裏側を見学できるツアーを実施するなど、青森県へ直接訪れることで楽しめる取組を用意する工夫が大切だと考えます。

(後藤議員)

聞いているだけでわくわくとして楽しい場所であり、いろいろなところから集まってきてくれそうだというイメージを持ちますし、また、研究開発、技術者として就職したいという希望を持たれている若い方とか、そういう方々にも積極的に働きかけて、多くの若者が働き、そして多くの人達が集う、そんな提案をいただきました。

私達も、さらに皆さんの若い意見を取り入れながら、県政に活かしていきたいと強く思いました。ありがとうございました。

（質問）



私達は農業を法人化し、廃校舎を活用した室内農業に力を入れることで、若者の収入面での不安を解消したり、ニーズに答えたりすることができると思えました。

しかし、体育館に空調設備や断熱材を設置するなどのリフォームを考えた場合、1億円程度は掛かるという記事を見つけました。

そのため、他県の事例のように、廃校舎を売却して企業を誘致し、室内農業をやってもらおうということも考えましたが、新規事業には県の支援が不可欠だという結論に至りました。

実際のところ、私たちが提案した案を支援していただく予算はありますでしょうか。

また、室内農業ですが、実は初期の構想では、県内に存在する空き家など、廃校舎以外の建物の中にも農業体験施設を作る案が存在しました。

しかし、県内に存在する廃屋の多くは、安全面の問題から二次利用が難しい状態にあるものがないということに気がついたため、対象を廃校の校舎のみに絞った経緯があります。

この過程を通じ、「青森県に存在する多くの空き家は、この先どのような対策が取られていくのか」が気になりました。他県ではリフォームをして、一定期間移り住んできた方に譲渡し、人口の確保に努めている事例もありましたが、青森県ではどのような対策をお考えでしょうか。

●農林水産部 農産園芸課

（農産園芸課長代理）



養液栽培システムやLED、空調設備などの導入に対する支援策としては国の事業があります。事業の実施に向けては、国が定める要件を満たす必要があるほか、予算額に限りがあるため、全国を取組の中から優れた順に採択されることになります。

このため、皆さんから提案のあった取組に予算が配分されるかどうかは、まず、目的や内容の詳細等を取りまとめた事業計画書を作成し、その後、事業の妥当性や費用対効果等について国との協議を経た上で明らかになるものです。

また、室内農業の収益を確保し、持続的に運営していくためには、初期投資の軽減だけではなく、従業員による野菜の栽培技術の習得や、安定した販売先の確保、病虫害の防除対策なども不可欠であり、県ではこのような、いわゆるソフト面を中心に支援しているところです。

最後に、廃校の再生と農業の振興を結びつけるというアイデアは、若い人ならではの素晴らしい発想だと思います。今後の県の取組の参考とさせていただきたいと思います。

●県土整備部 建築住宅課

(建築住宅課長代理)



総務省が実施した平成 30 年住宅・土地統計調査によると、使用目的がなく長期間居住者がいない住宅、いわゆる空き家は、県内に約 4 万 6 千戸あり、住宅総数に占める割合は、7.7%となっています。

「空家等対策の推進に関する特別措置法」では、住民に最も身近な行政主体であり、個別の空き家等の状況を把握できる立場にある市町村が、地域の実情に応じて対策を実施することとされており、県内では、令和 4 年度末時点で 34 の市町村が空家等対策計画を策定し、この計画に基づき、倒壊の危険や衛生上有害となるおそれのある空家等の所有者等に対する助言や指導、所有者不明の空家等の除却などを行っています。

また、法律では、県は市町村に対し、情報の提供及び技術的な助言、市町村相互間の連絡調整など必要な援助に努めることとされており、これまで、市町村職員を対象として、空家等対策計画や空き家関連の国の制度、空き家の除却や活用事例等に関する研修会を開催してきました。

県としては、引き続き、国の補助制度を活用した市町村の取組事例や、全国の先進的な空き家対策の情報提供等を通じて、市町村の空き家対策を支援するとともに、県内の宅地建物取引士による「空き家相談員」制度の活用や、空き家の発生抑制、活用促進等について県民の理解が深まるよう情報提供を行い、定住促進や地域活性化に向けて市町村が空き家を活用できるよう取り組んで参ります。